

Citation: Waseem Z, Boulias C, Gordon A, Ismail F, Sheean G, Furlan AD. Botulinum toxin injections for low-back pain and sciatica. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2011, Issue 1. Art. No.: CD008257. DOI: 10.1002/14651858.CD008257.pub2

CRG名: Cochrane Back Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 31 January 2010

Clib issue No.; N/U: 2011 issue 1 ; New

背景: 腰痛(LBP)は常に十分に緩和できるとは限らない。疼痛障害の治療において、ボツリヌス神経毒素(BoNT)注射の役割を支持するエビデンスが明らかになりつつある。BoNTの提唱者らは、BoNTはその特性により筋痙攣、虚血、および炎症マーカーを減少させることが可能で、これにより疼痛が軽減すると提唱している。

目的: 成人のLBPにおけるボツリヌス毒素注射の効果を評価すること。

検索戦略: CENTRAL(コクラン・ライブラリ 2009年、Issue 3)、2009年8月までのMEDLINE、EMBASE、およびCINAHLを検索し、対象とした研究の参考文献の選別も行い、その内容の専門家及びAllerganと協議した。発表済み及び未発表のランダム化試験について、言語の規制なく検索に含めた。

選択基準: 罹患期間を問わず、非特異的LBP患者を対象とした各血清型のBoNTと他の治療薬との比較を検証したランダム化試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアが研究を選別し、Cochrane Back Review Groupの基準を用いてバイアスのリスク評価を行い、標準化されたフォームを用いてデータを抽出した。データ不足のため、定性分析を実施した。

主な結果: 非ランダム化データ、不完全または未発表のデータであったため、19件の研究によるエビデンスは除外した。3件のランダム化試験(123例)を対象とした。慢性的な非特異的LBP患者に関する研究は1件のみで、残りの2件は、特定の亜群に関する調査であった。バイアスのリスクが低かったのは3件中1件のみで、BoNT注射によって3週目及び8週目時点の疼痛が軽減し、8週目時点で生理食塩水注射と比較して機能の改善がみられた。2件目の試験では、梨状筋症候群による坐骨神経痛患者において、BoNT注射は副腎皮質ステロイド薬(以下、ステロイド薬)をリドカインまたはプラセボと併用した場合よりも優れていることが示された。3件目の試験では、第3腰椎横突起症候群の患者において、BoNT注射は従来の鍼療法より優れていると結論づけられた。2件目、3件目の研究は共にバイアスのリスクが高く、重要な制約が複数存在した。研究間の異質性により、メタアナリシスは実施できなかった。BoNT注射が生理食塩水注射より疼痛、機能、またはその両方を改善するというエビデンスの質は低く、また、鍼療法やステロイド薬投与より優れているというエビデンスの質は非常に低かった。

レビューアの結論: LBPに対するBoNTの利点を調査した3件の研究を同定したが、バイアスのリスクの低い研究は1件のみで、非特異的LBP患者(31例)の評価を実施した。今後の研究が本効果の推定値および我々の本効果に対する信頼に重要な影響を与える可能性が非常に高い。今後の試験では、患者集団、治療プロトコル、および対照群を標準化し、より多くの参加者を募り、長期的なアウトカム、費用便益分析、および結果の臨床的関連性を含めるべきである。

(監訳 内藤 徹)

翻訳公開日: 2011年10月4日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改訂版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。